



10月号

令和 5年 9月 25日
横浜市立 星川 小学校
校長 いがらし あきら
五十嵐 玲
TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



「前期もまもなく終了」

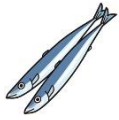
～季節の移ろい～

校長 五十嵐 玲

今年の夏は、全国的に気温が高い日が続きました。あるテレビ番組では、「日本らしい『四季』の変化が失われ、『二季』の変化になりつつある。」といった内容のニュースが紹介されていました。つまり、春と秋の期間が短くなり、夏と冬という二つの季節が1年間のほとんどの期間を占めてしまうようになってきているとのこと。



ところで、日本には、古来より四季の移ろいを楽しむ風潮があると言われています。清少納言は、日本三大随筆の一つ「枕草子」で「春はあけぼの。夏は夜。秋は夕暮れ。冬はつとめて。」と表現し、日本における曹洞宗の開祖と言われる道元禅師は、「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 冷しかりけり」という歌を詠んでいます。



さらに、日本の食文化にも、四季の変化を味わう風潮が見られます。例えば、日本では、それぞれの季節に最もおいしくなる“旬”の食材を大切にしていますし、出始めの“はしり”、季節の終わりの“名残”など、繊細な季節の変化を大切にしてきました。

これまで日本の文化と密接に関連しながら大切にされてきた四季の移り変わり。その四季が二季となってしまったら、日々の生活が、なんとなく寂しく、なにか物足りないものになってしまうのではないかと思います。今後も、春夏秋冬、四つの季節の変化を存分に味わうことができる日本であってほしいと願うばかりです。

さて、令和5年度も、春から夏、そして、秋へと季節が移ろい、前期の教育活動が終わりに近づいています。子どもたちには、9月最初の朝会で、次のような内容の話をしています。

「前期も残り1カ月ほどとなりました。そこで、今月は、自分自身の「まとめ」の1カ月にしてほしいと思います。学年によっては、4月に目標を立てたかもしれませんが、学習面、生活面、それぞれ、自分のことを見つめ直し、自分が成長したところ、まだまだ、成長できそうなところを確かめ、成長できそうなところについては、そのところを伸ばすように頑張ってみてください。」

子どもたちは、このおよそ6か月、授業中はもちろんのこと、行事等を含めた様々な場面で、自分らしさを発揮しながら大いに成長してきました。前期の残りの日々も、子どもたち一人ひとりが、自分自身をじっくり見つめ、よりよく成長できるように教職員一同、支援していきたいと思っておりますので、保護者の皆様方のご理解・ご協力のほど、よろしくお願いたします。

最後となりますが、7月から9月までに、地域では様々なお祭りが行われました。そのお祭りに参加している子どもたちの素敵な笑顔を通して、本校の子どもたちが、地域の方々にはしっかりと支えられて生活していること、そして、温かく育てられていることを改めて実感いたしました。



これからも、地域の皆様方のご支援・ご協力をいただければ幸いです。どうかよろしくお願いたします。